

Mail Box

前略 会員の皆様へ (第2信) WSFジャパン代表 ミツ谷洋子



すっかりご無沙汰しておりますが、お変わりありませんか。今号から装丁を変え、皆様へのお便りの欄を裏表紙からここに移しました。

数年来の不況はWSFジャパンの財政にも影響し、広告が減っています。安くない(?)会費をいただきながらも、財源は不足気味でこのところ赤字運営が続いています。経費削減の一環として、今号から全てのページの原稿をワープロで制作し、そのまま印刷することにしました。これまで印刷屋さん頼んでいた版下代が浮きます。幸い私も遅ればせながら、ワープロで原稿を打てるようになりました。(この原稿も仕事のあと、誰もいなくなった静かなオフィスで、ポツポツと打っています)

◇

唐突ですが、ミットヨという会社を御存じですか。世界有数の精密測定機器メーカーです。この会社は仏教を経営理念とし、売上高の1%を仏教伝道協会の活動資金として出資しています。会社経営の目的は「仏教の普及にある」と公言しているユニークな会社なのです。私がこの会社のことを知ったのは15年ほど前、スポーツ21という今の会社を設立したところのことです。会社経営といえば、亡くなった父が会社の経営者ではありましたが、経営のことについては、ほとんど何も教わりませんでした。

作ったばかりの小さな会社を、どのように経営していこうかと考えていた時に、新聞記事でこのミットヨという会社のことを知りました。今でも覚えているのは、同社が仏教聖典を無料で国内外のホテルに配布しているということでした。創業者で熱心な仏教徒である沼田智英さんが、海外のホテルの客室には必ず聖書が置いてあることを知り、この活動を始めたとのことでした。

当時の私は漠然と「経営とはまず利益を追求し、

会社として一人前になった時に、はじめて利益の社会還元をしていくものだ」と思っていました。しかし同社の会社の理念を知り、利益の追求と同時に、できる範囲の社会還元もしていこうと決めました。そして会社を設立した翌年の1981年に、WSFジャパンをスタートさせました。「仕事で世話になっているスポーツ界の発展のために、特に欠けている女性をめぐる環境の改善に寄与したい」というのが、私の思いでした。メセナ活動という言葉もまだ無い頃でした。

ミットヨが会社として素晴らしいと思ったのは、沼田さんが本業でも「世界一を目指す」という大目標を掲げ、着実に業績をあげていることです。WSFジャパンの活動を成功させるためには私も本業で一流を目指し会社経営をしていかねばならないと、肝に銘じました。(お陰様で本業は少しずつスポーツ業界で評価をいただけるようになっています)

◇

最後に愚痴をひとつ。WSFジャパンでは長年、日本体育協会と日本オリンピック委員会(JOC)に対し、女性役員の登用を働きかけてきました。その結果両団体には女性役員のほか女性委員も生まれました。私も1990年からJOC企画専門委員に選ばれ、積極的にオリンピック運動に関わってきました。ところが、この4月の組織改革と委員の改選で、私は何の説明もなくクビになりました。

少ない女性委員を代表して...と会議では積極的に発言し、各種活動には万難を排して協力してきましたつもりです。評価されなかったのは見解の相違と諦めるにしても、総務委員会の5つの委員会で、女性委員はたったの2人。それまでは4人でした。多くの女子選手の活躍を支えるJOCに女性は不要のようです。